

都市基盤河川改修(マイタウン・マイリバー整備)事業「水環境館」

受賞機関 北九州市建設局下水道河川部

はじめに

水環境館は、北九州市のシンボル河川である2級河川紫川において、治水対策と水辺を生かしたまちづくりを同時に行う都市基盤河川改修事業(マイタウン・マイリバー整備)の一環として整備したものである。紫川を整備するにあたり、昭和63年にマイタウン・マイリバー整備へのアイデアを市民公募しており、当該施設においても当時の提案の1つである中学生のデザインを参考とし「未来の水辺環境を考え・学べる施設」を提供する施設として整備したものである。

施設の特徴

本施設は全体を箱型の護岸として、その内空部分(1,300㎡)を利用している。整備にあたり約半分は河川拡幅を行うため用地取得した民間地下施設(地元百貨店)を利用しており、その再利用にあたっては従前の建築構造物から箱型護岸として強度を持たせるためのコンクリート中性化防止工事及び補強工事を行いコスト縮減を図っている。

展示内容

新たに築造した護岸の一部にアクリル製の河川観察窓(7.2m×2.3m)を設け、当箇所が河口に近いことから汽水域の様子が護岸内から観察できるように



河川観察窓



紫江'S全景



観察窓付近状況

している。この「窓」からはハゼやスズキ等の海水魚の遊泳する姿に加え、海水の遡上により生じる「塩水くさび」と河川水(淡水)との境界「淡塩境界面」も観察することが出来る。

また、河川に関するデータを公開・蓄積できる河川管理システムや本市の水環境の変遷と代表的な淡水魚の展示のほか、流域に関するデータを検索できるコンピューター等も設置している。さらに河川愛護団体の活動や学校の環境学習の場としても多く活用されている。

官民協同の施設

土地利用においては、河川立体区域制度を活用し、地上部には河川が眺望できる地上2階建ての商業施設を民間(地元百貨店)が建築しており、本市「水環境館」と民間商業施設との全体の愛称名を公募し「紫江'S」と決定するなど官民協同で事業に取り組んだ。

この結果、水環境館には平成12年7月25日の開館以来29万人を越える来館者があり、水辺を生かしたまちづくりに大きく寄与している。

受賞賛助会員 (株)竹中土木

